

平成 30 年度 すこやかメールマガジン 第 627 号【スネカ】 1 月 10 日配信

「カバネヤミ（怠け者）いねえが」「泣くワラシいねえが、言うことかねワラシいねえが」というフレーズが有名な「吉浜のスネカ」は、大船渡市三陸町吉浜地区に伝承されている伝統行事です。

吉浜では、小正月（1 月 15 日）の晩に、鬼とも獣ともつかない面を付け、みのに身を包んだ「スネカ」が、俵を背負い腰にぶら下げたアワビの殻をジャラジャラと鳴らしながら家々を訪れます。冬の間、長い時間囲炉裏にあたって火斑（ひだこ）ができた怠け者の「脛皮（すねかわ）」を「たくる（はぎ取る）」ことに由来します。（大船渡市生涯学習課HP）

昨年 11 月末「吉浜スネカ」は「男鹿のナマハゲ」など全国 10 の「来訪神」と共にユネスコ無形文化遺産「来訪神 仮面・仮装の神々」として登録されました。

私はこれほど恐ろしい形相の鬼が、どうして「来訪神」なのだろう？子どもたちがトラウマにならないかと心配になりました。しかし、スネカの口上や仮装について読み返すうちに、「怠け者」や「聞かない子」が改心する機会を与え、地区の皆が精を出して働くことで「豊漁」「豊作」をもたらす神だということが分かりました。

子どもが取りすがって泣く家人も、「カバネヤミも泣くワラシもいねえがら、餅あげっから帰ってけらっせん」と言い退散を促します。決して「スネカ」に言いつけるとか引き渡すなんて非情なことはしないというわけです。

江戸時代から続く「吉浜スネカ」は、地区の青年会によって受け継がれてきたものの、担い手不足から、現在では保存会を中心に地元の中学生も参加し、伝承活動に取り組んでいます。「“幼子が強く健やかに育つことを願う”この風習は吉浜中の子どもからお年寄りまで、『思いが一つになる瞬間』だといいます。（保存会会長 柏崎 久喜氏 談）

ユネスコの委員も「地域の人々、とりわけ子どもたちが、アイデンティティーを形成し、地域社会への帰属意識を深め、互いの絆を強めている」と評価しています。

無形文化遺産に登録されたこの機会に「吉浜のスネカ」から今一度、子どもを健やかに育てる家人の振るまいと、地域で子どもを育てる強い絆を学びたいものです。

私たちも 2019 年、いわての子どもたちが健やかに育つよう願いを込めてメルマガをお届けします。今後もどうぞよろしくお願ひします。【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^\_^))

mailto:[kosodatem@pref.iwate.jp](mailto:kosodatem@pref.iwate.jp)

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」  
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^\_^)/

\*\*\*\*\*

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索